

## 第 10 回 小中一貫教育校検証部会 要点録

開催日時	平成 27 年 5 月 22 日（金） 午前 10 時～12 時	
会 場	小中一貫教育校大泉桜学園	
出席者	委 員	酒井朗 下村恭子 近藤みちよ 小澤久美子 玉井弘子 西村貴 富岡弘美 木下川肇 池田和彦 勝亦章行 堀田直樹 伊藤安人
	協力委員	伊藤秀樹
	事務局	統括指導主事 新しい学校づくり担当課
傍聴者	なし	
案 件	(1) 検証報告書たたき台について (2) 小中一貫教育校の学校施設に関するアンケート調査について (3) その他	

### 1 委員の委嘱

### 2 前回議事録について

### 3 案件

#### (1) 検証報告書たたき台について

#### 部会長

それでは続きまして案件の(1)検証報告書のたたき台についてです。資料2の小中一貫教育校検証報告書たたき台について、構成と資料の3の報告書原文がありますが、まず構成について、事務局からご説明をお願いいたします。

#### 事務局

初めに、検証報告書の全体構成について、説明をさせていただきます。第9回の検証部会におきまして、全体構成に基づいて、報告書を作成するということになっていました。構成につきましては、資料2のところにありますが、全体を第1章から第5章までとし、最後に資料のページを入れるということになります。

それから各章の中にさらに中項目を設定しております。第4章の検証結果につきましては、1から7までの検証項目に基づいて作成をいたします。また、それぞれの1から7の検証項目につきまして、それに応じて、主要項目を設定するという事で、報告書をこのような形で構成をさせていただきます。

#### 部会長

まず、全体の構成案が出てきていますよね。もう一度見ていただいて、細かいところも入っていますので、順番といますか、こういう項目でよろしいかどうかということについて、何かご質問がある方はお願いいたします。

**委員**

初見ですので、何とも言いにくいのですが、第1章の2 大泉桜学園開校後。①から④の並びの箇条書きがあるのですが、率直に申し上げて、何となく違和感があります。その違和感というのは、本校の小中一貫教育としての検証なわけですが、これを見ますと、①小中連携教育研究グループ指定というような、こういう項目がぽんぽんと来るとここが先んじてあるのかなという第1章の柱立てがです。その後、フォーラムがあったり、本校の研究発表会を2月にやるというような、こういう順序性というのは、確かに年期を追っていけば、そういうことなのでしょうけれども、少し違和感があります。

**部会長**

そうですね。この1章は、区全体の小中一貫教育の取組の流れですよね。ですから、大泉桜学園の開校というか、そこで区切れているわけではないのですよね。

**事務局**

そうですね。区切らないほうがいいですか。

**部会長**

これは区全体の取組の流れですよね。そこをこちらの学園の開校前と開校後に分けているので、何となく違和感があるのではないですかね。

**委員**

違和感ですね。であるならば、開校前とか開校後と言わないほうが、わかりやすいかもしれません。

**部会長**

ええ。恐らくこの取組の中で、一貫校をつくるという話になって、それでこちらができてというのが、取り組みのどこかに1つとして多分入ってくるのではないですか。そのほうが流れとしては。

ですから、繰り返すようですが、区としての取組、全体の取組。その中で2章が大泉桜学園のこの一貫校の設置の話ですよね。こうやって分けたほうが区の取組自体が大泉桜学園の開校前と開校後に非常に大きく変わったというわけではないと思うのですが。

先生、そういう。

**委員**

そうですね。だから、例えば、2の大泉桜学園開校後とあるけれども、流れとすれば、まさしくここに大泉桜学園開校というのは、平成23年4月にあるわけで。

**部会長**

そうです。4月にあったというのがここにもう1つ項として入ったほうがいいですよ。

**委員**

入ったほうがわかりやすいかなと。私の違和感は、尽きるところ、そんな感じがしました。

部会長

わかりました。それは。事務局はそれでよろしいですか。

事務局

わかりました。

部会長

それは確かに先生がおっしゃるとおりです。ありがとうございます。

ほかにお気づきの点があれば。もう少しこういうことがあったでしょうというのが、これもあると思いますので、それも入れて、言っていただければと思います。

委員

第3章のところを見て読まないといけないと思うのですが、検証結果のところの項目について、どうしてこういうふうな項目立てをしたのかという説明が、これは第3章のところに出てくるわけですね。

たしか前年度のところで、練馬区の設置の基本方針の項目について、この委員会が検証していくんだということでしたよね。

それとこの第4章の検証の項目が、どういうふうに合致しているのかという全体的な部分を説明していただかないと。今日は資料を持ってきていないので、わからなかったのですが。

部会長

冊子の項目で検証するというのを一度やりましたよね。あそこのところがここに反映されているのですよね。

事務局

はい。第3章にそれを書き込むようにしたいと思います。

部会長

恐らく第3章の基本方針というところと、それから活用資料の検討項目というところのあたりで、恐らく今のようなここでの会議の確認事項が入ってくると思います。

委員

とすると、全体的な構成について、今ここでお話をするというのが、少し資料をもとにしながら、確認し合いながら行わなければ、この構成そのものがどうなるかというのは、不確定なのではないか。

事務局

その点は次回、検証計画のところを少し書き込んでから、ご意見をいただくということでもよろしいですか。

委員

いいと思います。

#### 部会長

4章の検証結果の柱立ては、そこで確認した柱になっているというのは理解しているのですが、恐らくまた第4章といいますか、資料3になったときに、細かなそれぞれの柱立ての中で、具体的に何をどう出すかというところが多分またご意見をいただくことになると思いますので、またお伺いした上で、さらに3章の検証を、先生がおっしゃったようなところを、もう一度確認していきます。

#### 委員

第4章の検証結果の1の(1)(2)(3)で分けてありますが、これはこの3つをここに表出したのは、何でなのでしょう。

#### 事務局

ゴシックの1、2、3、4、5、6、7は、昨年度の部会で検証結果についてはこの7項目でということでお示した項目になっていたのですが、それに実際、具体的にどの項目を振り分けるかということについては、今回、事務局でこういった内容については、ゴシックの何番に当たるかということ振り分けて記述しているのですが、この1番の9年間を見通したカリキュラムの作成・実施により、計画的・継続的な学習指導、生活指導の充実を検証するための具体的な項目として、(1)(2)(3)というのを当ててみているのですが、不適切な振り分けをしていることも考えられますので、そのあたりもご意見いただければと思います。

#### 委員

狙いはわかりました。それで、例えば7つの項目を分けるのはよろしいと思うのですが、私が気になるのは、(1)(2)(3)と、この分け方。先ほど言ったように表出しの仕方が、これでいいのかなというのが、(3)と重複するとか、関係しますよね。幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性が育成できるという視点で、こう分けていただいているというのは、これはこれでもいい。けれども、どちらかといえば、1番のほうが授業に関することだなというふうに。

#### 部会長

学習指導面が中心ですね。

#### 委員

どちらかという3のほうは、特別活動とか、いわゆる学校行事。そちら方面なのかなと。そういう分け方と解釈すれば、それでいいのかなとも思うのですが、そうすると、でも3番も学校行事とか異学年交流して、たてわり活動をやったりとか、まさしく運動会とか桜祭とか、9年間を通したカリキュラムの中ですよ。だからこの項目の表現がどうかというのと、1番と3番は密接な関係だから、こういう分け方でいいと思うのだけれど、むしろ順序性で挙げると、3番は2番に上がってこないかなとか、順序性の問題として。

なおかつ、これでやはり落としたいくないのは、1期、2期、3期と分けているということが大事で。特に4年生が東校舎の最高学年の位置付けで、教育課程のつくり込みをしていて、いわゆる5年生、6年生の通常最高学年の役割を、4年生が東校舎で担って、アクティブに、かつリーダーシップを4年生に担わせていく。そして7年生で今度は防災リーダー等のね。

だから、そう書く必要はないのだけれども、成長の節目は小中一貫教育校の本校にあっては、

大きなリーダー性を発揮するのが9年間の中で3回あって、通常の6・3制の中では2回のものが、1回多いという、数の面でも、そういうアドバンテージを持ってやっているというのは、検証の中にやっているはずなので、この中にも出していただかないとわかりづらくなってしまふかなと思いました。

#### 部会長

そうですね。今、見ますと、2のところの(3)に、4-3-2の区分というのが入っているんですね。恐らく、これがここではなくて、多分、教育課程全体の構成なので、1にあったほうが、先生がおっしゃった、まさにこれが1期、2期、3期なので、1期、2期、3期の分け方と、取組のことが書けるのではないかなと思います。

#### 事務局

振り分け作業をするときに、1つの事柄がいろいろな項目に当てはまってしまうので、全部それを書くと、再掲、再掲となって、何度も同じようなことを書くようになってしまったのです。最初に振り分けをやっていたときに、あまり再掲が多くても、量が増えるばかりでしたので、一番重立ったところはどこかなというのを、今、仮に当てはめているような状態です。

ですので、恐らくは不適切な部分があるかもしれませんので、一番当てはまるところはこちらではないかということであれば、メインをそちらにして、そうでないところは再掲ということと簡略な記述にすることになるかなと思うのです。

あるいは、そもそもこの7つの項目に分けていることに難しさがあるのだとすれば、この7つの分け方を変えていくことも、1つの考え方にはなるかとは思いますが。非常に密接にかかわり合っていることですので、きれいにさっぱり分けて書くことが大変難しかったので、実際にここに振り分けようかというのを迷いながらやったところではあります。

#### 委員

とてもよくわかります。例えば、4章の1のところについては、柱立てというのは、学習指導と生活指導の2つですよ。内容から見れば(1)(2)(3)というのは、全て学習指導の項目に当てはまって、生活指導の充実というところが、大きな項目はあるのだけれども、具体的な部分の検証の中味が描かれていない。

そうすると、生活指導の検証ということになってくれば、2番のところと3番のところの中に、学校としての生活指導という部分について、取り組まれていることがたくさん書かれているわけですから、その辺の部分を精査をすることと、やはり大きな項目があるにもかかわらず、内容の検証がないということについては、これはまずいと思います。

#### 事務局

1の中に生活指導の項目を、1の括弧に生活指導として何か項目を入れたほうがいいでしょうか。

#### 部会長

恐らく、1が全部をカバーしているのですよね。学習指導と生活指導ですから、ほとんど学校の教育活動を全部カバーしているので、ここにかなり入ってしまうのです。恐らく2は、円滑な移行のところがどうかというところで、児童と生徒に対するアンケートの結果とか、こうしたものを載せる形にしたほうが、恐らく柱立てそのものを反映した形にはなると思うので、

1のところを学習指導面と生活指導面で、さらに少し分けて、最初に教育課程全体の9年の一貫した教育課程があつて、それから恐らく1期、2期、3期の学年の分け方があつて、あと、こうした一部教科担任制とか、5・6年生の50分授業があつて、その後、生活指導面での取組があつてという流れを、学校全体の教育活動の概要を、1で全体をやはり検証する形にして。2は、段差が緩やかになって、円滑に意向が図られているかどうかというところをピンポイントで書いたほうが、この検証項目には多分沿った形になると思います。

こういうことをもう少し入れてほしいとかありますか。

#### 委員

こういうことをということで、申し上げたい。例えば3番の(3)で5・6年生からの部活動を取り上げていただけていることはよろしいのですが、私が思うのは、児童生徒会活動をピックアップしてほしい。5・6年生は部活動にまだ入っている子と入らない子がいます。生徒会と児童会を分けていなくて、そして5・6年生になると児童会ではない児童生徒会活動。当初は、児童・生徒会活動という言い方をしたのだけれども、あえて「・」を抜いて、児童生徒会活動という、これで1つの単語にして考えているんです。それで、立会演説とか立候補も、5年生、6年生も役員として立候補するのだけれども、上級生が一生懸命立派にやっているから、それを見習って、下級生も成長すると表面的には思えるのだけれど、私はそれだけだとは思っていないです。

どういうことかという、いわゆる中学生ぐらいになると思春期で恥ずかしがったりして、照れたりするのですよね。そうしたことが、少なからず起こりがちなものだけれども、5年生とか6年生のお子さんたちはまだ思春期手前にあつて、そういったことであまり照れたりはしないで、非常に真っすぐきちっとやるのですね。そういう姿は、5・6年生から見れば上級生の姿を見て、きちんとやる部分も当然あるのだけれども、下級生がきちんとやるから、上級生はその子たちの前でいいかげんな態度をとれないというふうには、襟を正すという。つまり、相乗効果、あるいは互惠性と私は言っているのだけれど、ある学年とかある集団が一方向的に恵みを与えるのではなくて、お互いに互惠。つまり、互いに恵み合うという字を書きますが、そういう部分として、私は児童生徒会活動というのは非常に、そういう組織をもって子どもたちが活動している基盤があるというのは大きいなと思っています。

そういったところを施設一体型では意識しないで日常的にできる。今回の運動会の準備なども、5年生以上から、いわゆる中学生も含めて、いろいろなスローガンを決めて、一生懸命飾りをつくっていたりというのは、放課後に見られる姿ですが、それがごく自然となっているところも含めて、児童生徒会活動はかなり大きな要素であると思いますので、どこかでうまく入れていただきたい。入れるとすれば、やはり3のあたりかなと思って、発言させていただきました。

#### 事務局

先ほど、1から4と、5から9で、校舎が分かれている点を、どこかに記述すべきということで、どこに入れようかというのは、実は大変迷ったのですが、結果として今6番の施設整備のところ、校舎のゾーニングというところに今は入れている状態なのです。施設整備に入れることでは本当はないのかもしれないですが、今、現状はそこに入っている状況です。

ただ、前段のところにも関連した記述は出てくるので、ここではないということであれば、1番の学校全体のところに入れるべきなのか。そのあたりのご意見をいただければ。

#### 部会長

恐らく、1で、最初のところで、1期、2期、3期と分かれているところで、1期が東校舎、2期、3期が西校舎というところで多分、ここを出したほうが話としては。だから、教育と結びつけて書いたほうが意味があるように思いますし、それとはまた独立して、僕は施設面から見た観点で、校舎のゾーニングというのは、もう一度書いていただいていたと思います。

ここに書くことは非常に意味がありまして、ここはやはりいろいろなところで、小中一貫校を自治体も含めてつくるときに、施設をどうつくるのかというのがすごく大事で、ここの1つの特徴は、ゾーニングがしっかりできていることなのです。それはやはり強調したほうがいいと思っていますので、いろいろなところに書いたほうがいいと思います。

#### 委員

内容に入ってしまうかもしれませんが、たたき台を読ませていただいたときに、4章の検証結果の1番のところをぱっと見て、最初に学力調査の結果が出てきているのです。昨年の中では、学力調査の数字的な結果については、これは過程を大事にしようということで議論をしたと思うのですけれども。

#### 部会長

そうそう。議論をしましたね。

#### 委員

それが最初に出てきて、その結果が出されているということに対して、ものすごく違和感があって、この検証というのは、学力調査の結果をここに持ってきているんだという印象を与えかねないと思いました。

それで、これを載せるかどうかは別の議論としたところで、載せるということになれば、4番の項目のところの学力や体力の向上というところに、学力ということについて書かなければいけないわけですから、学力の向上というところの言葉を捉えれば、そちらのほうに入っていくべきではないかと考えました。

#### 部会長

そうですね。そうしましたら、内容にだんだん入ってきていますので、またこちらの柱立てのところでご指摘いただいても結構ですので、こちらのお話を少し入れていったほうが多分いいと思いますので、この検証報告書の本文のほうをもう少し見ていただいといたほうがいいと思います。最初に事務局から簡単に、こんな大部のものを簡単には難しいと思いますが、少しご説明ください。

#### 事務局

それでは、たたき台の資料3の第4章の検証結果のところですが、それぞれ1番から7番まで検証項目がありまして、それを踏まえて、先ほど申し上げた項目を立てて、とりあえずたたき台の中では、1番については、(1)で9年間を見通した学習指導、それから(2)として、5・6年生の一部教科担任制。(3)として、5・6年生の50分授業と分けてあります。

それぞれの取組について、最初に前段のところで、取組について簡単に説明を入れた後に、検証アンケートだとか、あるいは学校評価アンケート、そういったアンケート調査後もそこにに入れてあります。そのアンケートについても、簡単な分析をそれぞれの資料の下に入れてあり

ます。

その後に関連するものを、例えばこの中では、学力調査の、各種学力等の調査結果によりとありますので、関連するものをそのあたりに入れてあります。

その後、教員のヒアリング、もしくは教職員のヒアリングがありますので、それぞれ期待される効果、検証項目等を一覧にしたもの、それと内容ということで、それぞれの教員のヒアリングを入れてあります。

これまでも1回目から9回目までの中でも、検証部会のご意見ということで、ご意見を入れた後に考察ということで、構成として入れております。これが全体の1番から7番までのそれぞれの検証項目について、基本的にはこの構成で、報告書を作成していることとなります。

#### 部会長

それで今のお話ですが、4章の最初で次の2ページを開けますと、最初に目に入ってくるのが、学習状況調査の学力テストの結果の表だと。ここでずっと議論してきたのは、こういう取組のプロセスを大事にしていく中で、学力のテストのこういう点数だけで考えていくものではないのではないかという話がずっと出てきたと思います。ですから、この結果はどこかで多分出す必要があるのかなと思いますが、流れとしてこの流れでは、ここでずっと話し合ってきたトーンと違ってしまわないかということだと思います。

何か、どうするというのがありますか。

#### 事務局

学力調査をそもそも載せる、検証報告書に入れるべきかどうかというところは、確かに躊躇はあったのです。もともと細かい数字を公表するというところではなかったのですが、ただ、他区市の検証報告書などを見ますと、学力調査を出しているところも結構あるものですから、出さないでいいのかなという気もして、今、とりあえず載せてありますが、このあたりは皆さんのご意見をいただいて、載せる・載せないと、載せるならこの場所と、先ほども出ていた点も含めて。

スタンスとして、学力の調査結果だけで何か判断をするわけではないというところはそのとおりなのですが、出した上でそれを言うのか、もしくは出さないかと。

#### 部会長

そもそも出さないかということですね。ここは、委員の皆さんからご意見をいただいて、また事務局が考えると思いますので。いかがでしょうか。

#### 委員

学力調査は、本当にその教科の一部分を捉えて検査をしているわけですから、このデータを見ると、例えば練馬区の学力調査について言えば、前年、本来ならば、取組が進んで、向上しているところが、そういった数値にあらわれてこない部分があったり、特に全国のB問題についても、そういった部分で本当に一部を捉えての調査ですので、それで検証結果と言えるのかどうか。使えるのかどうかということ、少し吟味していかないと、難しい部分はあるかと思えます。

どちらかといいますと、子どもの意識のほうが大事かなと思います。全国学力学習調査の児童・生徒の意識調査、回答をしたもの、そういったもので子どもの意欲、意識がどう向上してきたのかを捉えたほうが、わかりやすいかなと思います。



#### 部会長

学習状況調査の意欲、アンケートのほうのデータはあるんですか。つまり、これまでこの部会の中で、その資料を出してきてはいなかったと思いますから、報告書に含めるのであれば、それをまたここで見ていただく必要がありまして。

#### 事務局

持ち帰らせていただいて、また。

どういう状況にデータがあるかを、今ちょっとわからないものですから。

#### 委員

保護者の立場からまいりますと、学校の評価としてはやはり、学力がどうなっているかというのは知りたいところでございまして。

ただ、ここにいきなりわっとくると、その評価の軸の考え方がぶれるということがあれば、知りたいところではあるので、どこか違うところに、資料編という形でも載せていただければ、見たい方は確実にそこは探っていくのかという気がいたしますので。学習意欲もそうなのですが、では本当にこういう形になって、学力はどうだったのかというのは、やはり私たち保護者の目線でいけば、重要な指標かと思しますので、教育的な視点では語れませんが、気持ちの中でいけば、そういうふう思うようなところはあります。以上でございます。

#### 協力委員

私の読み手としての感想は、学力の結果がやはりないと、何でないのだろうということが逆に気になってしまうかもしれないというのはあるのですが、確かに最初は少し気になる。逆にそれが目立ってしまうということもあって。

思ったのは、第4章の1の最後に、一応こういう結果でしたが、捉えている部分は学力の一部でありという話を補足した上で2に進むと、2の学校生活への満足度などは、年々向上していったりとか、良い経過も見られるので、だいぶイメージが違うのかなという気はします。

#### 部会長

そうですね。そうしましたら、少し構成を変えて、そうしますと、この資料の持つ意味がだいぶ違ってきますし、それから、今、ご意見をいただいたように、あくまでこれは学習面の一部を見ているものにすぎないとか、それからあとは、やはりそれぞれ集団が全く違う。去年の3年生と今年の3年生は違うわけで。そういうことですか。そうした幾つか留意事項を付記するような形で、少し場所を、どこに掲載するかも含めて、事務局で再度検討して、また次回に新しい形で出させていたいただきたいと思います。

#### 委員

こういった学力調査の結果というのは、非常に細かく学習の子どもたちの教育活動の検証をするのですよね。ですから、この学力調査の結果、数字が出されて、それを細かく分析をして、こういうふうな指導を積み重ねてきたから、こういうふうな点数の変動があるというところまで分析をしていかなければ、学力調査の結果はあまり意味がないものになるわけなのです。

ですから、こちらの今の2ページと3ページというのは、あくまで数字と数字的な推移の説明だけに終始しているわけであって、これがどういうふうにかの学校の小中一貫教育校と

学習指導と結びついていくのか、どこが課題なのかというところを吟味して、本当は結果として、検証していくものなのだろうな。ただ、そこまでのことが本当にできるかどうか、非常に難しいと思うのですけれども。

この部分をなくして、数字だけぼんと出ているものですから、これを出すことについて、本当に意義があるのかということは、私は考えたいと思うのです。

少しでも触れられればとは思いますが。

#### 部会長

わかりました。そうしましたら、いただいたご意見を踏まえて、事務局で検討させていただいて、出すか、出さないか。出すとしたら、どういう形で出すか。どこの部分を出すのかというような、いろいろなことがありますので、また検討させてください。それでまた次回までには報告いたします。

では、ここはそういう形ということで。そうしましたら、それ以外のところも含めまして、この報告書、非常に大部なものなので、全部を見ることは全くできないと思いますが、何かめくっていただいて、お気づきの点ございましたら。

#### 委員

今おっしゃっていた、学力をどう分析して、どう活用するかというお話について、参考になることを少し申し上げます。それは、この学力調査を全体を見て、細かいことは抜きにして、全体を通して、本校の児童・生徒ができていない傾向というのは、長文で出てきたような問題については無回答のところがあるのです。ですので、ここから考えられることは、長い文章を読みこなす力がない。あるいは、そういう読み込んでいく訓練が足りないから、気力とか、粘り強さがない。だから、面倒臭くなって、これはもういいかと取り組まないということがあり得るかなと。

だとすれば、いわゆる国語的なものだけでなく、文章的なものをきちっと粘り強く読み込んでいくようなスキルアップをさせていかないと、そういう問題には対応できないだろう。という意味で、そういう言語活動を充実させていくということが課題です。

その結果が一定の、ある程度傾向としてはどうもそんなところがあるなというふうには私たちは考えていて、それが1つ、結果に出ているかなというふうには思っています。

#### 部会長

今年、学習指導での授業改善ということで、研究に取り組まれているというのが、まさにそこにつながってくるわけですね。ですから、実はそういう取組全体が、少しかがえるようなものにするか。幾つか書き方の選択肢がありますので、いろいろご意見を踏まえて、もう一度考えます。ありがとうございます。

それではほかに今、言いましたが、中味でごらんになったところでご感想なり、もう少しこの点はこういうことではないかとか、こういうことは全然入っていないではないかとか、ございましたら、お気づきの点はどこでも結構ですので、ご指摘ください。

#### 委員

P T A組織における小中連携のページのところで、35ページにあるのですが、組織図が少し違ってまして。

小学部、中学部というのはいいのですが、その下をたどっていただくと、文化部というのと、委員会というのがあるのですが、昨年からこれを統一して、委員会にしたのです。

なので、小学部のほうも全部、文化部となっているのですが、全部、委員会。サポーター委員会ということで、全部名称が変わりました。

1年生から9年生までのお母さんも一緒に動くということで統一しましたので、そこが違っているかなと。

#### 事務局

全部同じになったのでしょうか。

#### 委員

もしあれでしたら、同じでもいいんです。分けているのですけれども。

一緒になっているので、1つにさせていただいて、定例会についても今はそれぞれになっているのですが。

ただ、1回目と最後。最初と最後は一緒にやりますが、間が、まだ小中で一緒にできないことがあって、途中は別々というのがあって、そこが複雑になってしまうので。一緒なのだけでも、間は別々だよということなので、少し難しいかなと。

#### 部会長

ただ、今のお話ですと、全体としては一緒にやっているというので出したほうがいいですよ  
ね。

#### 委員

ただ1つ、小学部で校外部というのがあるのですが、そこだけは中学部にはないので、校外委員会というのだけは、特別に小だけのもなのですが、あとは全部同じです。

#### 部会長

わかりました。はい。それがうまくできるような形で、なるべく一緒にやっているようなのが見えたほうが良いと思いますから、何となくこれは分かれているような感じに見えますので。

#### 委員

資料3の1ページのところの学習指導上における各期の考え方。これは何かから抜粋をされたのかと思うのですが、Ⅱ期のところの2行目のところで、「意欲的に学ぶ姿勢を身につけることを目指す」と書いてあって、Ⅲ期のところになると、「主に学ぶ姿勢を身につけることを目指す」と書いてあるのですが、ここはどういうことなのか。

#### 事務局

何かを引き写したと思うのですが、引き写し間違いがあるかもしれませんので、もう一度、確認します。

#### 委員

それとあと、1ページの下から2行目のところで、「教員、保護者、学校関係者の順に肯定的な回答が高くなる」とあるのですが、数字的にいうと、肯定的な回答というのは上の行を見る

と、学校関係者が一番肯定的な回答が高い。そういう意味ではないのですか。

**事務局**

高い順から掲載したほうが良いということですよ。上がっていているというような。高い順から書き直した方がわかりやすいですね。

**委員**

学校関係者というのは、誰をいつているのでしょうか。

**事務局**

評議員の方と町会長さん、学校応援団の方たちなどです。

**委員**

多分どこかに説明はあるのだろうとは思いますが。

**事務局**

それも入れなければいけないですね。入れます。

**部会長**

学校関係者は、何人ぐらいでしたか。アンケートで。

**事務局**

応援団の方が25、学校評議員の方と、あと町会長など、30~40人です。

**部会長**

これをまた見ていただいて、これを見るのは時間がかかると思うのです。ですから、ここがおかしいのではないかとというのがあったら、後でまた事務局に言ってください。それでどんどん直していかなければいけないので、これはまだ最初のたたき台ですので。全然直しますから。そう言ってしまってもいいですか。

これだけのものを今の時間に読むのは無理なので、気づいた点がありましたら、随時、そちらに連絡をしていただいて、それをまた反映させる形でまた次回、それを反映した形のドラフトをまた持ってきますので。そうさせていただければと思います。

あとそれから、本当に細かいので、もう少し、先ほどのPTAのところも、PTAの活動でこんなことをやっていることがうまく出ていないとか、何かありましたら、また言っていただければ書き込みますので。

**事務局**

17ページに、不登校生徒の傾向というのを今回、初めて入れています。

大泉桜学園を開校する際の計画段階では、小中一貫教育によって、不登校生徒を減らしますというふうに、そういう効果があるだろうと計画段階では書かれておりました。ですので、触れないわけにもいかないかなということで、今までの部会ではあまり話題にならなかったですけども。

部会長

そうですね。初めて見ました。

事務局

計画に対応した検証ということで、今回、書いて入れています。ですので、ここについては、今回、初めて出したものですから、ご意見をいただければと。

部会長

これをそもそも出すのかどうかということもですね。

事務局

そうですね。ここも出し方が難しいところかなと感じています。

部会長

まずグラフの見方ですが、これは小学生、中学生、全部含めての人数ですか。

事務局

これは生徒ですので、中学生だけです。

部会長

不登校というのは、この統計に出てくるとき、年間30日以上欠席を長期欠席と言います。それで、長期欠席者の中で不登校、いろいろな理由があるわけで、病気とか、いろいろな理由があるのですが、その中で不登校として、文部科学省に統計として上がっていた数なのですね。ですから、長期欠席全体と不登校はまた違うのですが、その不登校ですよ。

事務局

そうです。

部会長

それで、どうでしょうね。長期欠席全体も数は同じような動きなのですか。

事務局

それは確認しないと。

部会長

わからない。

どうでしょうか。年度によって、これは統計のとり方が違っているのですよね。

委員

1つの方向性として、小中一貫教育の9年間は不登校対策に有効であるというのは、大体言われている話だから、それを載せないというのはアンフェアで、やはりきちんとした報告書として皆さんに読んでもらったり、参考にってもらうためには、項目を出すことは当然のことだと私は思います。

ただ、ここで言うのも何なのですが、不登校の要因はいろいろあるので、書き方によっては、特定されてきてしまいますよね。あの子のことみたいな。そこがなかなか難しいので。

それから、数値の中だけでは必ずしも減らないというのは、私も思うのです。ただ、では全く手をこまねいて何もしていないのかというと、そうではなくて、これは数が出ていないから、すごくレトリックというか、詭弁に聞こえるかもしれないけれども、一貫にならなかつたらもっと増えているのではないかという気がします。

それは、不登校の場合には、いろいろな難しさがあるわけですがけれども、一貫教育校になって小籍、中籍の教員が、いろいろ協力し合って、いわゆる主任児童委員さんとか福祉関係とか、そういう方たちとも関係性を持ってやっていくという意味では、一貫になって非常に、学校の教員はやりやすくなりました。そのやりやすさは、不登校の予防とか、あるいは学校への復帰とか、そういった点については、私は効果があると思っています。ただ、でも数は減っていないのではないかとわれれば、だから詭弁かなと思うのだけれども。でも、それでもやはりそう思いますね。

もっと簡単にいえば、小学校のお子さんが今日来れないよと言ったとき、誰か空いてるかと思ったら、中籍の教員がぱっと出ていったなどということもあります。それから、パニックになって校門の前で動けなくなってしまった。でも小学校籍の先生たちは全科を教えているから、そこで抜けていけないわけです。でも、職員室には中学校籍の教員が、授業のない時間で執務をしているときに、ではちょっと行こうというので、実際にぱっと出ていって、お母さんが迎えるまで、やさしくなだめたりすかしたりということもできるわけです。

とにかくそういうがあるので、私は一貫になったところはみんなが協力して、担任一人が抱え込まないで対応できる。中学校の場合は、副担任もいるから、機動力がありますよね。そういう部分の中だけで対応しないで、小の部分にも投入できるし。また、小学校のきめの細かい接し方に、中でも学ぶことがたくさんあるわけで、そういう点では、そこをもう少し状況を反映させて書いていただけるとね。

#### 部会長

そうですね。学校の取組。

一貫校ならではの協力体制に基づく対応というのをやはり書かないと、この話は。

#### 事務局

書き込んでいこうかという思いもあったのですが、先ほど言われたように、少し書くと特定されてしまいそうな事情が出てきてしまう可能性があって、学校側の対応を書こうとすると、どうしても児童・生徒、もしくはご家庭の状況の一端を記すことになりかねないので、そこがどうしたものかなということで、今、何も書いていないのですが。

#### 部会長

ただ、一貫になってできている指導という部分を、やはりアピールする必要がありますから、何らかの形で、まず下書きを書いてみて、この場に出して、またご意見をいただいてにしましょう。その方がいいです。開校以来どういう取組をしてきたのか。やはり書いたほうがいいです。そうしましょう。

#### 委員

保護者にとっても、こういったケアがされているということを理解するには、意外と知らな

かったり、まだわかっていない方もいると思いますので、全般的に、ここであれば、心あったまルームとか、学校の中での独特なケアルームがありまして、そういったものもあって、小さい小学生も随分助けられているところがあると聞いておりますので、そのような現状をお出しいただいたほうが、学校の実像がわかるという。この2番の表題のように、「その結果、不登校生を減少させる」と突然出てきますと、「え？」と、何だろうということがあるかと思しますので、むしろ全般的にケアがされているというようなことも表記をいただくと、私ども保護者としても大変助かっているという部分はわかるかなと思います。

#### 委員

今言ってくださったことをもう少し具体的に、やはり小中一貫になったから、例えば、心のふれあい相談員の方も2人いる、それから、カウンセラーの方も2人いる、うちは1つの学校としてやっているから、もちろん主たる業務は中学校を見てくださいね、小学生を見てくださいねというふうに振り分けはあるけれども、例えば、カウンセラーの方だと、男性と女性1名ずつですから、ご相談内容によっては、小学校のお子さんだけでも、あるいは小学校の保護者の方だけでも、男性のカウンセラーがお話を聞いてあげたほうがいいのかとか、その逆とかというふうにシフトをうまく。

それから、どうしても養護教諭などもそうだけれども、どうやっても一人職場の中でやっていかなければいけないときに、複数いるということで、第一次的にはその立場の人たちが相談し合えるという効果があって、そこはやはり適切な対応がとりやすいのではないかなと、私は見えています。

#### 委員

今の17ページのグラフなのですが、これは生徒ということで中学生のみの数字ですよ。それを小学校、中学生まで入れることは不可能なのですか。

#### 部会長

できます。

#### 委員

小学部、中学部、両方入れたほうが数字的な流れが多分変わってくると思うのです。

#### 部会長

そうですね。これを入れて。

#### 委員

随分違ってくると。あと、今おっしゃったように、きめ細かい対応はして下さるのでということで、地域、小学校から中学校に来る学校数が相当なのですね。この学校は。結局、きめ細かい対応をしてくれるので、自分の地域学校から移ってくるお子さんがいらっしやる。またその中に、不登校気味のお子さんがいらっしやる場合もあって、数字が少し上がってしまうこともあります。

だから、23年にできて、24年、25年と、少し上がってきて、また下がってくるという。中学部だけ見ると、もしかしたら、そこがあるのかなというふうに見えるのですが。

これが小学校で、1年生から9年生になると、かなり違ってくるかなと思います。

**事務局**

今おっしゃったような事例というのは、何となく、そうではないかなというのは、事務局側でも把握はしているのですが、ここに書いてしまうと、本当にそういう理由でここを選んだ方にしてみれば、あまりいい気持ちにはならないかなという気もするので、なかなか書きづらい点でして、何て書こうかと悩むところです。

**委員**

そうでないお子さんもいらっしゃいますしね。

**事務局**

そうなのです。せっかく選んでくださった方に関して、そういう見方をされるのかと思われても困るので。

**委員**

だからこそ、1年生から9年生のほうがいいのではないかなというか。

**部会長**

なるほど。はい、そうですね。

1年生から出すのはできますよね。できますので、それをまた入れた中で、どういう形でこうしたものをお示しするかということと、それからあと、今、ご議論いただきました、このことをめぐって学校や地域の方との連携の中で、どういう取組がなされてきたのかということをしっかり書くようにして。それから、こういう小中一貫ができたことで、こういう形で取組ができるようになったということはまさに成果なので、それが書けるように。書き込むようにしましょう。

**委員**

13 ページのところですが、教員のインタビューのコメントが、この中に載っているのですが、例えば上から2つ目の教員（小）と書いてあるところのコメントの中に、2文目のところで、「小学校自体の教員がいるからあまり馬鹿なことができない」という発言をこの方はされているのですが、多分そういう意味なのだろうと思うのだけれど、表記上の問題として、「馬鹿なこと」というのは、やはり適切な言葉ではないので、全部インタビューの言葉を精査しているわけではないので、そこはやはり一度、精査をしていただきたい。

**部会長**

そうですね。少し丁寧に精査しないとまずいですね、これ。これだけですかね。

**委員**

また、28 ページで、ここも教員ヒアリングなんですけど、上から2つ目の小学校教員のところで、2行目のところで、「小学校校籍の教務主任は中学校の進路指導については分からないし」とか。とても断定的なことで書かれていますので、「分からない」という言葉は、やはりこういう場面でも不適切だと思いますので、そこは教員のヒアリングの言葉尻を少し見直していただくところがあるのではないかと思います。



#### 委員

今言っていたことを、私も後ほどお願いしておこうかなと思っていたのですが、言葉でヒアリングしていますから、ぶっきらぼうだなとか、それから文言として出たときにはいかがかなと思うので、私は決して隠蔽体質でもないと思いますし、教員の率直な意見もあると思うのですが、このままだと誤解があるなということ。

それから、これは要約していますよね。要約している限りは、そこでもう1つ作業が入っているわけなので、今ご指摘されたところは、ほかにも見方によってはあるわけで、例えば、そもそも小学校文化、中学校文化と言われる時代の中から考えてみれば、そこからスタートしているから、いいつもりで言っているのだけれども、見る人が見たら、何だ、つくる前はそうだったのかというような。

そういう、そこに読み手の関心が移ってしまうと、検証したことではなくて、それ以前のゴシップネタのような形でものが広がっていくと、そもそもの趣旨も違ってくると思うのです。

私はまだこれを十分に読み込めていないですけれども、そこは本当にお願いしたい。

あまり、言っていることを丸め込んでしまうのだったら、隠蔽することになるので。でも、特に人権上のこととか、職務としてどうかというようなことで、そういうのも入れていただいて。

今日これをすぐ丸め込んでどうこうというつもりは毛頭ないのですが、だから、今日の資料については、あくまでたたき台ということでしょうね。

よく読んでみると、だいたいあの先生が言ったのかななどとわかりますよね。

#### 委員

わかります。

#### 委員

そんな悪気があると言っているわけではないなと思うのだけれども。

#### 委員

全然そう思います。

#### 部会長

そうですね。言葉が独り歩きしてしまうのでね。

#### 協力委員

ヒアリングに参加して、メモを作った側なのですけれども、メモをとっているときにやはりかなり丸め込んでいる感じで、言葉尻がどうしても、もしかしたらわからないではなく、完全にはわからないでおっしゃっている部分を、わからないと書いてしまっているとか、そういう部分もあると思うので、多分ヒアリングのときには録音した部分であやしいと思った部分は聞き直していただくとありがたいと思います。

ですので、先生は、もう少しマイルドに言っているところを、記録としてはストレートな言い方になってしまっている部分が、もしかしたら結構あるかもしれないので。済みませんが、よろしくお願いします。

## 事務局

施設整備のところですが、施設整備については、特段、この部会でご意見をいただいてこなかった面もあるので、もし保護者の方ですとか、この学校にいらしていただいている印象で、お感じのことですとか、お子さんなどからお聞きになったこととか、何かあれば、教えていただければと思います。40ページからです。

## 部会長

廊下のことだとかのページがありますが、ゾーニングがあって、交流スペースのこと、体育施設等々と特別教室、この辺ですね、

これは実は、先ほど言いましたが、実はここは非常に大事なところで、ご意見をしっかり反映させていく必要があるところでして。

職員室が小中合同であるということが、ここがそれで連携が非常に深まっている部分があると思うのですが、学校によっては、そもそも職員室が2つあるというところもあるのだそうで。ですから、この学校のこういうところが非常にいいところではないかとか、あるいは、ここはもう少しこういうところで、こういうふうにしたほうがいいのではないかとかありましたら、ご意見をいただけますとありがたいです。

例えば、体育館やプールをここは2つずつ持っているのですよね。小学校と中学校、昔の小学校と中学校がくっついていますから。あれも、新しくつくるときには1個にすることができるのです。ですから、2つあることのよさということもあると思いますし、ですから何かそういうところでも、ご意見をいただけますとありがたい部分です。

校庭もこれだけ広くて、こっちとこっちと両面とれて、素晴らしいですよ。都内でこんなに大きな校庭はないです。

## 委員

参考になることとして、学習指導要領が定められていると、いろいろ教育計画に基づいて授業をするわけです。そうすると、簡単に言えばプールだったら、深さが違います。中学生と小学生は。まず安全性をきちんと担保しなければいけないわけです。

小学校の場合は、1年生から6年生で違いますから、水位を上げたり下げたりしています。これが、より近代的なプールだと、自動で床が上がってきたりとか、そういうこともあるのですが、それができない場合は、水位を下げたり。小学校のお子さんが中学のプールで泳いだら、これは危険ですので。できないということですから。

跳び箱でも大きさや幅や高さが違うから、5・6年生はこちらの校舎に来ていますが、体育の授業ということになれば、基本的には東体育館でやるというのは、そういう教材教具が学習指導要領に基づく単元計画が違うから、理科の実験でも、中学校の理科と小学校の理科では、内容が違いますから、中学校のそういう実験器具が、そのままスライドしてそれで使えるかという違いがあるので、あちらに移ってもらう。

特に5・6年生は東校舎まで行かなければならないというのは、大変ではあるのですが。ただ、2つないと、同じ1つの体育館の中で、うちはいろいろなタイプの朝礼があります。まず全校朝礼があります。それから成長に応じた期別朝礼があります。低学年、中学年、高学年。それから、先ほど言った児童・生徒会の子たちが自分たちで計画して主催してやっていく桜学朝会。教育目標の桜学を取って、朝会という形で、子どもたちが司会をしたり計画をする朝会です。何種類もあるわけですから、それを毎週いろいろな形でやりますけれども、1つしかない、同じ体育館の中で前と後ろでマイクを使ったら、とてもできない。だから、2つ離れた

ところであって、落ち着いてできることが大事なわけです。

そういうことは至るところに、体育館やプールだけでなくあります。

3年ぐらい前に、小中一貫施設一体型の小中一貫教育校としては、すごく最新鋭の校舎をつくった小中一貫教育校が、観光バスをチャーターして全員の方たちが本校に視察に来てくれたことがあったのですが、逆に本校のそういう様子を見て、先生たちはこちらのほうが使い勝手がよくて、うらやましがられて、帰られて、翌年、私とその学園を、小中一貫のサミットがあって伺ったのですが、これでは使いにくいだろうなど。例えば、急に雨の日に体育になりましたといったときに、譲り合えないですね。

施設の設備のことで、そんなに教員から不満がないのは、2つあるから使い勝手がいいから、例えば部活動でも、空いていれば東体育館を使えるわけです。そういうメリットがあります。これが1個しかないと、まず予約を取るのが大変になってきます。予約を取るのが大変になると、そこがストレスになりますよね。

あと施設設備については、これを見ていて思ったのですが、桜連絡会に管理していただいているリサイクル金が、地域の方たちが古紙回収などで、マネジメントは桜連絡会に管理していただいている、そこでまとまってきたものについて、公費で執行するのはいかがかなと思うものについて、いろいろと対応していただけているのは、本校の学校教育をすごく充実させていただいていると考えられますね。

開校のときに、大泉桜の里の田んぼをつくるのでも、そこからのご寄附をいただいて、できた経緯もありますし。毎年そういう形でやっていくと、こういうものがあると本当にすばらしい教育活動ができるなというようなものに対して、支援していただいているので。施設設備はこうなっているのだけれども、実はそういう出てこない部分も大きい。

それと、地域との連携部分、地域社会と連携した特色ある学校づくりというのは、先ほど、項目が違っていったのがあったと思うので、ここを深めて、でも、そういうのは実はそこにぴったり当てはまるなというふうに思いました。

#### 事務局

それは、大泉桜学園の開校前からそういった仕組みがあったのを引き継いでいるわけでしょうか。

#### 委員

そうですね。

#### 事務局

小中も一緒にの仕組みとして、リサイクル活動をされて、その収益ということですか。

#### 委員

リサイクル活動をしているのは主に小学校部門になってしまうので、緑小もそうですが、この近辺の小学校は、もうどんどん活動をしているのですが、新聞の回収とか回っていますよね。それを、桜小学区の地域で回っていただいているのです。

中に関しては、いろいろまた、学区がぐちゃぐちゃになってしまったりしているので、もし希望の人は特別に言ういただければそこも回りますが、基本は桜小の学区のところからの、月1で古紙回収ということで、新聞とか段ボールとかアルミとか、いろいろごみがあるのですが、それを業者さんに頼んで、回収をしていただいて、それが報告が練馬のほうの区役所さん

のほうですけれども、毎月その報告を見ていただいて、1キロ何円という計算で、練馬区から報奨金が。これがすごく大きくて、年に2回、前半と後半と分けて、報奨金をかなりいただけるので、それを子どもたちに還元をしようということで、毎年毎年、学校と相談して、今年はこれが少し足りないとか、これが欲しいというものがあれば、もちろん役員の中で相談をして、それから、ではいいです、買ってくださいということで。そういう活動はずっとしています。

**部会長**

ぜひそれは入れてください。

**事務局**

地域との連携ですね。

**委員**

うちだけではないと思う。ほかもみんなそうだと思うのですが。

**部会長**

でも、大事な連携の姿ですから。ありがとうございます。

## (2) 小中一貫教育校の学校施設に関するアンケート調査について

**部会長**

それでは、時間の関係もございまして、次の小中一貫教育校の学校施設に関するアンケート調査についてという、資料の4をまたごらんください。これをまた事務局から説明をお願いいたします。

**事務局**

資料4について説明をさせていただきます。

これは先ほどの施設整備の項目に関連して、現在、準備を進めておりますアンケートです。小中一貫教育校の施設整備の検証につきましては、大泉桜学園の場合は、幸いにも小と中が隣接の敷地ということで、大変恵まれた環境を維持できているので、あまり課題と思われるような点がそんなにないかなと。2階に渡り廊下があったらよかったなというのはあるのですが、量的な部分については、あまり課題が見られないのかなと感じております。

全国の施設一体型小中一貫教育校の状況を見ますと、先ほど、部会長からもお話がありましたように、一貫校新設を機に小中でさまざまな施設を共有している事例が見られます。大泉桜学園単体での検証ですと、その2つの施設を維持しているよさが当たり前になって出てこないのですが、実は大変そこに意味があるということを、この検証報告の中で、明らかにできればなと思っております。

ですので、ここの部分については、全国の小中一貫教育校との比較を行いたいと思ってございまして、全国にどれだけ施設一体型の小中一貫教育校があるかというデータが、既存のものはないと思いますから、こちらで拾った範囲の小中一貫教育校で、網羅しているものではないのですが、全国の、恐らく施設一体型であろうと思われる小中一貫教育校をインターネットなどで拾ったリストをつけさせていただいております。大体、100校ぐらい施設一体型ではないかと思われる学校がありましたので。

町村部は抜いております。規模がだいぶ違ってしまいますので、あまり参考にできないかなということで、区市部ということに限定して、小中一貫教育校に対して、施設整備について、アンケートをしたいと考えているところです。

アンケートの案を資料4でお示ししていますが、今、主に施設の共有化をどの程度図っているかということと、共有した施設について、使い勝手はどうかというところを聞きたいというような内容になっています。施設面積などをお答えいただくのに、かなり負担をかけるようなアンケートなので、どの程度回収できるかはわからないのですが、こういったことでアンケートを実施して、できれば次回の部会までに集計ができれば、検証報告書に書き込んでいきたいなと思っているところです。アンケートの内容ですとか、報告でご意見がありましたら、いただければと思います。お願いいたします。

**部会長**

区のほうで独自のアンケートを作るということになりまして、アンケート先をどこにするのかがなかなか、資料がないもので、名簿をつくっていただいたのですよね。

**事務局**

本当に一体型かどうか、実はわからないのですが、恐らく一体型であろうと思われるところを拾っております。

**部会長**

先ほどずっと話題になっていました、この学校のこういう施設のよさを逆に浮かび上がらせるために、ほかの取組の状況を調べておこうというものです。

こういうのも聞いたほうがいいのかとかというのもありましたら、言っていただけたらと思います。

もう1つ、面積というのは必要ですか。面積はすぐ出るものなのですか。学校でこういうアンケートで。

**事務局**

延べ床面積ですか。

**部会長**

延べ床面積。体育館何平米だとか。

**事務局**

そうですね。ここのところは非常に負担をかけるアンケートになってしまうのですが。

**部会長**

これがないと、このアンケートは非常に楽だと思うのですが。

**事務局**

施設整備の担当課からは、面積を入れてほしいと。面積を聞きたいということなので、不明の場合は空欄でも結構ですという添え書きを添えて。

部会長

どこかに書いたほうがいいですよ。

事務局

そうですね。面積を調べてくれというのは非常に負担をかけることになります。

部会長

これは何か書類を出して調べないと、わからない情報ですよ。

要するに、これは特別教室関係ですね。これに添え書きで、趣旨のようなものが、扉があるのでよね。

事務局

今日お持ちしませんでした。これとは別に依頼文をつけますので。

委員

感想です。先ほど、いみじくもプールのことや体育館のことなども話したら、関心が体育館に移っているのはよくわかるのですが、子どもの主たる活動は普通教室なのですね。普通教室に対しての質問がないですよ。理科室とか何かはあってもね。

それで、私はあまりそういう考え方はないのだけれど、新しくこういう施設一体型の学校では、いわゆる教室を持たないでベースになっている部屋がそれぞれ教科別に分かれますよね。いわゆる教科型教室配置型です。だから、国語の時間はあの教室、社会科ならばあの教室。うちなども一部それを取り入れているわけです。算数、数学、英語などは個別学習室で、少人数学習でやっているから、そこに移動したりしているわけですね。だけれども、基本的には学級が1年1組なら1年1組がベースで、そこでしっかり学習していく。動かない。

ところが、帰りの学活などはそこである程度残るのだけれども、絶えず動いている。そういう考え方もありますね。小学校はいわば定住型だけれども、高学年は移動型になってくるのもあるし、その考え方は学校運営の理念だと思いのです。

だから、それについて、何らか触れなくていいのかなと。それだとすごく学校の教育課程のレイアウトも全然違ってきますよね。

委員

建築の延べ床がわかっても、何か建物がどういう形に並んでいるのか、何階建てなのかということが、これだけだと浮かばないというか、もしあれでしたら、学校の何階建てかということや、体育館が別築にあるのかとか、そんなようなこともわかるとわかりやすいかと思います。

部会長

校舎が幾つあるのかとか、それぞれが何階建てなのかとかという、基本的なところはあったほうがいいですね。結構背の高い一貫校もありそうですね。そうすると、教室移動で大変でしょうね。5階とか6階建てだと。

事務局

もう少し基礎データをということですね。

**委員**

もし、もうちょっと聞けるのであれば、イメージが。体育館はあるのだね。でもどうやってあるのだろうかというのが。別にあるのか、もしかすると今は、都心部の場合は全部ビルインで屋上がなどというケースもあったりもするのかなと思ひまして。

**部会長**

そうです。地下だったり屋上だったりということがありますから。  
少しわかったほうがいいですね。

**委員**

あと、関連するのですが、合築型というのですか。福祉施設などと一緒になったものがありますね。上が住宅になっている。地方などだと統廃合も含めて、高機能を持たせるために学校以外の施設をそこに持っているなどというのがありますよね。

**部会長**

地方は統廃合なのですよ。少子化の中で、いろいろな施設を集めて、実際に予算がどんどん縮小していく中で、どうやって学校をやっていくのかということが出てきているところもありますから。これはいつごろ調査するのですか。

**事務局**

来週には発送する予定です。6月の下旬に回収をして、可能であれば、次回の部会までに集計を考えております。

(3) その他

**事務局**

先ほどの、検証報告書のご意見なのですが、次回部会の直前になっていただくと、直しが間に合わないので、来月の上旬ぐらいまでにはいただけるとありがたいと思います。

**委員**

では1個、いいですか。部活のことで、部活が5・6からできるということで、7年生から入学した場合は、初めてということになると、新入部員的な感じになるのではないかと思います。それで、そこのところでは差があるのかなと思って見ていたのですが、これは、特に影響がないと49ページに書いてあるのですが。5年、6年が入った部活の内容が何となくわかると、7年生から入ってくる場合の様子もう少しわかるといいかなと思ったのです。一貫でなければ、全員同じスタートだと思うのです。

**部会長**

7年生から入ってくると、前からやっている子と、7年生から初めて始める子と出るわけですよ。

**委員**

その辺の様子が少しわかるといいかなと思ひました。

## 事務局

5・6年生の部活の入部状況というか、パーセンテージですか、人数とかそういう数字的なものでしょうか。

## 委員

あと、様子ですね。どんなふうに行っているのかという。

## 委員

うちの課題というのは、大泉学園緑小に対しての情報提供をもっといろいろやっていかなければいけないと思うんです。今、緑小に専用黒板という掲示板をつくってもらって、そういう情報提供などを行っているのだけれども、それも更新するのはいかんせん大変で、中途半端になってしまっています。情報提供も含めて輪の中に入ってきていただくということでは、情報提供に大きな課題があると思っています。

ただ、緑小のお子さんたちが入ってきて、途中から入ってきたことで、大きなつまずきになっているかという、そういうことは考えにくいですね。むしろ、緑小の卒業生のお子さんたちが、各学年でリーダー格になったり、人気キャラクターになったり、そういうことなので、むしろ力を発揮していただけるかなと思います。

それからもう1つは、緑以外の、先ほどもお話があった、たくさん来られている、お一人、お二人と来られているお子さんたちも、一貫の学校の雰囲気にととてもなじめなくて困ったということはないだろう。

それはなぜかという、1年生から9年生までが、一緒に切磋琢磨して、いろいろなケースでもって異学年交流をしています。目立ってくるのは、やはり子どもがやさしくなる。上級生はリーダーシップと、やはり信頼に応じて頑張らないといけないという、それから下級生は上級生にあこがれを持ちながら、そういった相互関係でやさしくなってくるので、雰囲気が、よそからと言うのはおかしいけれど、転校生も含めて、排他的にならない。むしろ非常にやわらかく吸収していくという点で、すごく私は手応えを感じます。

逆にそういう関係性がないと、例えば中学校などでも1年生、2年生、上級生の関係がきつくて、部活動も挨拶をしないと、体育館の裏へ呼びだして、なんてことがあるところはやはり、異質なものに対する排他性が高いのでしょうか。そうすると、転校生と見ると何か、いじめないまでも、ちょっと何かみたいな。

一貫を行うことによって、子どもたちの関係性が良好、仲がよくなって。またそういう異学年交流をたくさんやっていますから、その結果、排他性がないので、そこら辺は心配がない。

部活動も同じで、5年、6年とやっていて、2年先輩だから、俺たちのほうがうまいねといっても、子どもたちは順応力が高いから、やっていた子にすぐ追いついてしまうし、運動関係だともっと運動能力の素質もまた少し違うので、そこはあまりそういうことで感じたことはありません。

## 委員

緑小に掲示板というか、情報がされているというのは、多分、子どもよりも保護者のほうが気になる場所だと思うのですが、それは、周知されているのでしょうか。

## 委員



周知はされているのですが、もう少し細かく書いてちょうだいという要望もいただいています。おっしゃるとおりなのだけれども、やはりなかなか更新に行けないのです。それこそ先ほどの児童生徒会にもお願いして、やってもらおうなどというので、あるのだけれども、やはり結局は担当者が誰かつかなければいけないので、副校長のレベルでやったのだけれども、副校長たちもすごく忙しいし、私が行けばいいのですけれどね。なかなかそうもいかないのです。

#### 委員

ありがとうございました。

#### 委員

今の校長先生のお話を酌み取れば、行事の23ページあたりの合同行事のところ以外に、結構異学年交流の行事がたくさんあるというのは、私も先ほどぐっと発言を控えたのですが。特に虹を渡ろう会ですとか、そういう少し独特な、桜学園ならではの行事がありますので、そちらのほうはぜひ、一覧でも何でもいいと思うのですが、ご紹介していただきますと、その裏付けになるような気がいたしますので、アンケートである言葉以外に実態というところを、もう少しこのところでお示しをいただくとよりわかりやすいかと思います。ついつい私はアピールになってしまうのですけれども、そういうのをお示しいただくと、よりこのアンケートの内容が映えてくるような気がいたしますので、ぜひ。

#### 部会長

そうですね。具体的な教育活動もちろん書く項目がありまして、前半のところでも、異学年交流は教育活動としてどんなことをしているのか、出しますが、そこで詳しく書き込むのでは弱いですか。

#### 委員

前半のところどこまで、この内容が出ていませんのであれでしたけれども、両方というのはあれかもしれませんが、ここできちんと示されれば、それでよろしいかと思いますが、独特な合同行事以外のもので、学年ごとのモチベーション、先ほど防災リーダーもそうですし、4年生から校舎が、施設的に変更されて、こちらに来るときの意識付けというものもありますし、その辺のところは別途、ご記述いただいてもいいのかなと。

#### 部会長

ありがとうございます。そこは注意して書くようにしましょう。

そろそろ時間ですので、ここで今日の審議を終わらせていただきたいと思います。本当にたたき台で、また次回、今日のご議論をもとに直して、また持ってきますので、またご意見いただければと思います。

#### 事務局

補足です。この検証部会は、全体的には5回を予定しているのですが、実はこの検証部会では、練馬の小中一貫教育そのものの評価検証というのもテーマに入っているのです。ですので、この大泉桜学園の小中一貫教育校の検証をまず今年度前半にやって、年度の後半は、練馬区の小中一貫教育の評価検証に着手したいと考えているのですが、練馬区全体の小中一貫教育の評価検証となった場合に、桜学園の保護者の方たちにご意見をいただくところが難しくなっ

る場合も考えられますので、この検証報告書の進み具合によっては、もしかすると、後半は教育委員会と校長先生方での議論となってくる場合もあるかと思っておりますので、あらかじめご承知いただければと思います。

**部会長**

それでは、次回の検証部会ですが、7月9日、木曜日、午前10時からになりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第10回練馬区小中一貫教育推進会議、小中一貫教育校検証部会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

(閉 会)